

ネット時代の風評対策を考える

2010.07.17 @かながわ保全医学研究会
農研機構 動物衛生研究所 小泉伸夫

1. はじめに

この春、宮崎県で口蹄疫が猛威を振るい、それに伴って、さまざまな憶測、デマ、風評も飛び交っていました。一般の人には名前すら知られていなかった「口蹄疫」が時代のキーワードとなり、その一方では、この病気や家畜伝染病対策に関する理解は、じゅうぶん

に市民に浸透しなかったのではないかと思います。

5/12には口蹄疫に関して「ネット炎上」となったと言った報道もありました。

大部分の国民が携帯端末を含め、何らかのネット接続環境を持つようになった現在の情報環境で、「口蹄疫」と言う、これまで一般にはほとんど知られていなかった重大な社会問題が起きたとき、情報はどのように伝わったのか、また、その情報伝達に問題は無かったのか、「ネット炎上」を期に多くの人を知ることとなった、ネットでの誤情報の流通や風評についての問題を取り上げ、ネット時代の、「正しい危機管理情報の伝え方」について、じっくり考えて討論していただきたいと思います。

2. 口蹄疫の情報の伝わり方の特徴

☆口蹄疫に関する基本的な情報や、今回の一連の発生、対策の流れについては、周知のものとして省略します。

ネット上での反応が顕著になってきたのは、口蹄疫の疑似患畜確認日(4/20)ではなく、28日の豚の初発例(しかも県の施設だった)あたりから。

口蹄疫の疑似患畜確認日の4/20には農水省は対策本部の設置をして現地対応を始めましたが、ネット上ではなぜか4/30に自民党が独自の対策本部を設置したことが話題になり、「国は何も対策をしていない」という情報が出回り始めました。

それに拍車を掛けるように、農相の外遊批判、さらには首相の普天間移設問題まで絡んで、政権政党批判に発展。口蹄疫対策に直接関係の無い部分を理由に批判が盛り上がり、連休明けに1つのピークを迎えます。(注：家畜伝染病対策の各種措置は知事が出す)

この時期に、無根拠な批判が横行したり、「現場の話」として、「牛さん、豚さんがかわいそう」「農家がかわいそう」という方向の記事のコピーが大量にネット上に出回ったりしています。

しかしその後は、ワクチン接種措置→新規発生の鎮静化、および鳩山内閣退陣などの時期には、口蹄疫をめぐるblog記述等も一気に減少し、政府や農相が批判の対象となるようなニュースが出ると、一時的に口蹄疫に関する記述も増える、という状況が続いています。

(批判記事の詳細はスライド、および回覧で紹介します)

今回の口蹄疫に関わるネット風評の特徴として

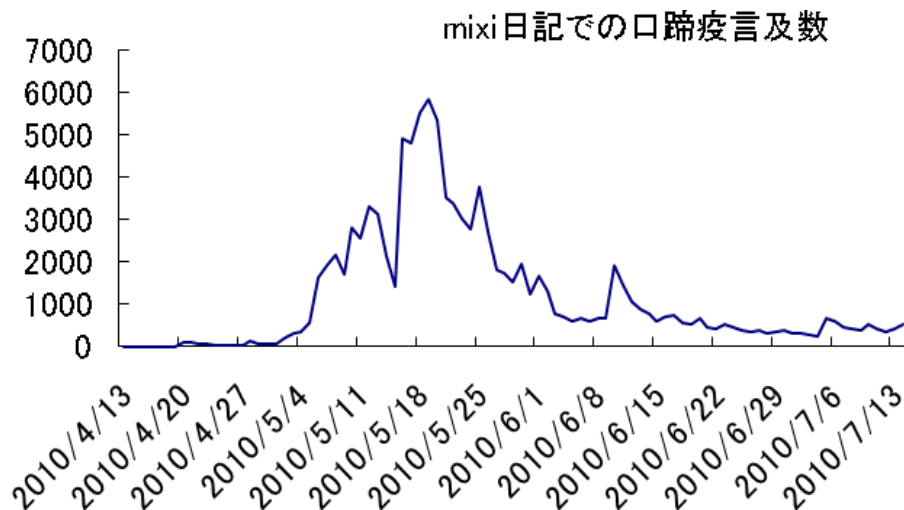
- ・政治批判，政権批判へのすり替え
- ・情報隠し，報道規制等の，情報があまりマスメディアに載っていないことを根拠にした批判
- ・政府が消毒剤を現地に出さないというデマ（もともと国は緊急用の消毒薬は在庫していないのだが…）

……と言った，政権批判，政府批判に転嫁したものが相次いでいた。

その一方で，5月時点では食の不安に関する風評はほとんど見られず，鳥インフルエンザ発生時の風評と大きく異なっていた。

その後，現地周辺では宮崎ナンバーの車に対する風評被害や，宮崎からの訪問者規制，宮崎への訪問の自粛などが報じられていたが，ネット上ではこうした風評を批判する立場の記述が多く，現実世界と仮想世界の風評に違いが表れてきた。

以上のように，ネット風評が独自の形，独自の伝わり方を示すことが，今回の口蹄疫発生に伴って起こっていた。



3. ネット風評に特徴的なもの

「ネット風評」独特の特性について、要点をまとめてみました。

- ・発信者が匿名のものがほとんど
- ・情報源がはっきりしないもの、報道記事の曲解などが多数
- ・コピー&ペーストによるチェーン化
- ・情報伝達の高速化
 - ソースとして Blog や SNS など、個人が簡単に発信できるメディアが使われ、twitter, Blog, SNS の日記のトラックバック機能が多用される。
- ・情報源のはっきりしないガセネタを「大手メディアが伝えない真実」として信頼を持って受け入れ、コピーして再発信する事例が多数。
- ・発信者も閲覧者も、自分の興味のあるものを選んで、それしか見ない。
 - 狭い興味の範囲で一気に盛り上がる＝炎上事件を起こしやすい

特に今回、「何の裏付けも無い情報がコピー、再発信を繰り返す過程で『信頼できる情報』『マスメディアが伝えない真実』として、信頼を獲得してゆくような現象が多数みられています。

ある種の「ロンダリング」のような現象と考えられ、特にネットではその傾向、「ロンダリング」の速度の速さが特徴的でした。こうした、無根拠な情報が、誰のお墨付きも裏付けも無く、勝手に「真実」「事実」に変貌する状況は、風評対策を考える上で、非常に手強い現象と言えます。

しかも、国会議員までもが twitter に誤情報のコピー&ペーストを行っていたり、県議会議員が裏付けの無い情報をひとこと語ったことが、翌日にはネット上を駆け回っていた、と言った事例もありました。

また、信頼できる助方言であるべき公的な Web による情報提供については、その参照数が激減しているという問題もありました。

4. ネットを風評対策に活用する道は無いのか？

HPAI や新型インフルエンザの発生時には、情報を整理して送り出す二次情報サイト

「鳥及び新型インフルエンザ 海外直近情報」

<http://nxc.jp/tarunai/>

これが有力な情報源として活用された実績があります。

今回の口蹄疫の発生に際し、獣医師の自主組織である「獣医学教育をささえあう会」が、二次情報サイトとして「口蹄疫まとめ」を提供しています。

http://vet-cheers.org/pages/foot_and_mouth_disease/

また、公式情報をビジュアル化して個人 blog で再発信する例もありました。

<http://konstantin.cocolog-nifty.com/blog/>

これらは公式情報源より要点が整理され、分かりやすく、しかも原典に当たることも可能です。

しかし、風評に対する説明、大臣や知事、行政部局からの発信に対する十分な理由説明や家伝法（および特措法）解説と言った、直接、風評の原因を断つような情報発信は見られていません。

感染症対策に対する理解増進はもとより、情報発信者のセキュリティの意味も含め、今後、ネット上での丁寧な補助的説明は、情報発信者の重要な責務として取り組んでも良い状況に来ているのではないのでしょうか。

また、Google が昨年公表した「インフルトレンド」のような、流行情報を解析するためのツールの提供も、感染症対策にとって、利用価値のあるものだと思います。

<http://www.google.org/flutrends/intl/ja/jp/#JP>

今後、情報発信者は、情報に振り回されること無く、的確で分かりやすく【普及しやすい】情報発信が、現場でもネットでも求められることになると思われます。ネット情報が現実社会に大きな影響を持つようになってきた今だからこそ、ネット風評に関心を持ち、その対策を真剣に考えるべき時期に来ているのではないのでしょうか。